

38 (2) : 84 頁, 2008.

- 38) 相川 弦, 小林正治, 高田佳之, 齋藤 功, 林 孝文, 齊藤 力: 顎関節の異常と顎変形は関連する. 第 21 回日本歯科医学学会総会, 横浜市, 2008 年 11 月 14 日 -16 日, 第 21 回日本歯科医学学会総会・抄録集: 113 頁, 2008.

【研究会発表】

- 1) 朝日藤寿一: 新潟大学における治療体系について. 第 6 回日本における口唇裂・口蓋裂治療に関する多施設共同研究を考える会, 東京, 2009 年 1 月 15 日, 2009.

【受賞】

- 1) 大石めぐみ, 原田史子, 前田健康, 齋藤 功: 歯根膜ルフィニ神経終末の再生過程における GDNF の関与. 第 67 回日本矯正歯科学会大会 優秀発表賞, 千葉市, 2008 年 9 月 16 日 -18 日.
2) 碓井由紀子, 小野和宏, 朝日藤寿一, 幸地省子, 高木律男, 齋藤 功, 八木 稔: 二次的顎裂部骨移植の時期の違いが顎顔面の成長発育におよぼす影響について. 第 32 回日本口蓋裂学会総会・集会 日本口蓋裂学会優秀論文賞, 広島, 2008 年 5 月 28 日 -29 日.

【その他】

- 1) Anwar RB, Tanaka M, Yamashita E, Watanabe N, Ali MN, Ohshima H, Ejiri S: Relationship between estrogen deficiency-induced oral bone loss and systemic osteoporosis. J Musculoskelet Neuronal Interact 8 (4): 352, 2008.
2) 齋藤 功: 平成 20 年度・特色 GP 講演会報告, 「平成 20 年度・特色ある大学教育支援プログラム報告書」: 27-43 頁, 2009.
3) 齋藤 功: 教職員のスキルアップのための大学院 FD, 「平成 20 年度・大学院教育改革支援プログラム・プロジェクト所属による大学院教育の実質化」: 51- 63, 2009.
4) 越知佳奈子, 山添清文, 森田修一, 齋藤 功: 最近のトピックス: 歯列模型の三次元解析システムの開発. 新潟歯学会雑誌 38 (1): 23-24 頁, 2008.
5) 齋藤 功: 愛媛大学で開催された大学院教育 FDWS への参加報告「平成 20 年度・大学院教育改革支援プログラム・プロジェクト所属による大学院教育の実質化」: 65- 114, 2009.
6) 八巻正樹: 特色 GP 新潟大学歯学部ビデオライブラリー Vol.10 歯科矯正学基礎実習, 2007.
7) 渡邊直子: 特色 GP 新潟大学歯学部ビデオライブラリー Vol.11 歯科矯正学トレース実習, 2007.
8) 渡邊直子: 大学院 GP 新潟大学歯学部大学院ビデオライブラリー Vol.8 矯正歯科臨床ライブラリー 「口腔内写真撮影法」, 2008.
9) 竹山雅規: 下突咬合の治り方, 治し方—55 症例を顧みて—第 2 報下顎前歯の位置変化とジンフィージスの厚さについて. Monograph of Clinical Orthodontics 29 : 13-16 頁, 2007.
10) 中村順一: 下突咬合の治り方, 治し方—55 症例を顧みて—第 3 報成長のない症例における側貌変化について. Monograph of Clinical Orthodontics 29 : 17-21 頁, 2007.
11) 澤田美穂, 八巻正樹, 森田修一: 下突咬合の治り方, 治し方—55 症例を顧みて— 第 1 報 下顎が回転した症例と回転しなかった症例の比較検討. Monograph of Clinical Orthodontics 29 : 1-12 頁, 2007.
12) 鳥巢隆弘: 叢生を伴う過蓋咬合症例. 松本歯科大学歯学部歯科矯正学講座臨床セミナー, 塩尻市, 2008 年 4 月 16 日.
13) 原田史子, 混合歯列期後期の I 期治療と II 期治療を行った下顎前突抜歯症例. 甲北信越 3 大学交流セミナー, 塩尻市, 2008 年 6 月 7 日.
14) 竹山雅規: 叢生を伴うアングル II 級 1 類抜歯症例. 甲北信越 3 大学交流セミナー, 塩尻市, 2008 年 6 月 7 日.

小児歯科学分野

【論文】

- 1) Numa N, Ishida Y, Nasu M, Sohda M, Misumi Y, Noda T, Oda K: Molecular basis of a perinatal

- hypophosphatasia with tissue-nonspecific alkaline phosphatase bearing a valine-to-alanine change at position of 406: Implication for structural importance of the crown domain. FEBS J 275(24) : 2727-2737, 2008
- 2) Kinoshita-Kawano S, Sugibayashi A, Taguchi Y: Lay knowledge and attitudes on the management of traumatically avulsed teeth and the use of mouthguards. Ped Dent J 18(2) : 124-130, 2008.
 - 3) Hayashi-Sakai S, Sakai J, Kitamura T, Sakamoto M, Taguchi Y: The clinical oro-facial findings of an 11-year-old Japanese boy with 47, XYY: A case report. Ped Dent J 18(2): 179-186, 2008.
 - 4) Harada M, Kenmotsu S, Nakasone N, Nakakura-Ohshima K, Ohshima H: Cell dynamics in the pulpal healing process following cavity preparation in rat molars. Histochem Cell Biol 130(4): 773-783, 2008.
 - 5) Takamori Y, Suzuki H, Nakakura-Ohshima K, Cai J, Cho SW, Jung HS, Ohshima H: Capacity of Dental Pulp Differentiation in Mouse Molars as Demonstrated by Allogenic Tooth Transplantation. J Histochem Cytochem 56(12): 1075-1086, 2008.
 - 6) Hashimoto E, Nakakura-Ohshima K, Kenmotsu S, Suzuki H, Nakasone N, Saito C, Harada H, Ohshima H: The suggestive relationship between the cusp pattern and plural stem cell compartments in guinea pig cheek teeth by chasing BrdU-labeling. Arch Histol Cytol 71(5): 317-332, 2008.
 - 7) Unno H, Suzuki H, Nakakura-Ohshima K, Jung HS, Ohshima H: Pulpal regeneration following allogenic tooth transplantation into mouse maxilla. Anat Rec 292: 570-9, 2009.
 - 8) Hayashi-Sakai S, Taguchi Y: The early treatment of unusual sever ectopic eruption of the bilateral maxillary canines in a young Japanese girl: a case report. Ped Dent J 19(1): 112-116, 2009.
 - 9) Taguchi Y, Hayashi-Sakai S, Iizawa F, Numa-Kinjoh N: Classification of maxillary canine transpositions in Japanese children: a report of 10 cases. Ped Dent J 19(1): 136-144, 2009.
 - 10) Thaweboon B, Laohapand P, Amornchat C, Matsuyama J, Sato T, Nunez PP, Uematsu H and Hoshino E: Host β -globin-gene fragments of crevicular fluid as a biomarker in periodontal health and disease. J Periodontal Res 44: in press, 2009.
 - 11) 高木純一郎, 宮田 勝, 岡部孝一, 名倉 功, 坂下英明: 小児ラヌーラの臨床的検討. 小児口外 18 (1) : 15-20, 2008.
 - 12) 筒井 睦, 嘉藤幹夫, 大東道治, 富沢美恵子: 色選択法による知的障害児・者の歯科診療前後における心理状態の把握. 小児歯誌 46 (4) : 446-454, 2008.
 - 13) 筒井 睦, 佐野富子, 田口 洋, 富沢美恵子: 歯科診療における小児の心理状態と行動の把握—CFSS-DS, Faces Rating Scales および色選択法を用いた検討—. 新潟歯学会誌 38 (2) : 29-36, 2008.
 - 14) 富沢美恵子, 飯澤二葉子: 小児の口腔疾患—病理組織診断から—. 新潟歯学会誌 38 (2) : 59-69, 2008.
 - 15) 大島邦子, 田口 洋: 新潟大学医歯学総合病院小児歯科外来における最近5年間の障害者歯科に関する臨床統計的検討, 新潟歯学会雑誌 38 (2) : 51-53, 2008.
 - 16) 津田 高, 飯澤 二葉子, 三富 智恵, 田口 洋: 上顎中切歯に発生した良性セメント芽細胞腫. 小児歯誌 47 (1) : 119-124, 2009.
 - 17) 高木純一郎, 佐野富子, 三富智恵, 田口 洋: 歯胚の方向異常による下顎第二小白歯萌出障害の臨床的検討. 小児歯誌 2009, 印刷中.
 - 18) 福島伸一, 野口真紀子, 田口 洋, 野田 忠: 知的障害者の歯科診療に対する適応性の長期的変化. 小児歯誌 2009, 印刷中.

【商業誌, その他】

- 1) 田口 洋, 林-坂井 幸子, 津田 高: 埋伏上顎犬歯への対応—重度症例と軽度症例との類似点—. 小児歯科臨床 13 (1) : 45-52, 2008.
- 2) 田口 洋: 乳歯・永久歯の外傷による脱落. 新歯界, 平成20年度7, 8月号(通巻676号), 40-43頁, 2008.

【外部資金獲得状況】

- 1) 田口 洋, 坂井幸子(林 幸子): 小児の萌出障害に対するEBMに基づいた包括的治療指針策定に関する研究. 平成20-22年度科学研究費補助金 基盤研究(C), 20592395, 2008.
- 2) 田口 洋: 科研費応募支援経費, 平成20年度学長裁量費, 2008.

- 3) 大島邦子, 大島勇人: 歯の他家移植治療法の基盤となる歯根膜細胞の分化誘導法の確立. H 20-22 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2), 20592394, 2008.
- 4) 大島邦子: 他家移植実験とプロモデオキシウリジン (BrdU) ラベリング法を応用した外傷歯の歯髓組織幹細胞の動態と分化能の解明, 平成 20 年度新潟大学プロジェクト推進経費 (奨励研究), 2008.
- 5) 松山順子: リアルタイム PCR 法による小児口腔内細菌叢のプロファイリングと臨床的指標の確立, 平成 20 年度新潟大学プロジェクト推進経費 (奨励研究), 2008.
- 6) 松山順子: 小児の成長に伴う一口量と咀嚼回数の変化に関する研究, 2008 年度「やずや」食と健康研究所助成研究, 2008.
- 7) 佐藤拓一, 島内英俊, 高橋信博, 八巻恵子, 真柳弦, 松山順子: 歯内療法にフィードバック可能な, 新たな感染根管微生物学的評価法の開発, 平成 20-22 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 一般, 20592220, 2008.
- 8) 三富智恵: 科研費応募支援経費, 平成 20 年度学長裁量費, 2008.
- 9) 富沢美恵子, 佐野富子, 鈴木 昭: 歯科検診を応用した施設入所被虐待児のセルフ・エスティーム啓発プログラム. 平成 20-22 年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C), 20592396, 2008.
- 10) 河野承子: 膜蛋白異常症をもたらす遺伝子・タンパクを指標にしたエナメル質形成機構. 平成 19-20 年度科学研究費補助金, 若手研究 (B), 19791569, 2008.
- 11) 河野承子: 歯牙発生過程におけるアクアポリン 1 (AQP1) の発現とその存在意義. 平成 20 年度新潟大学プロジェクト推進経費 (奨励研究), 2008.
- 12) 坂井幸子 (林幸子): I M 法による破壊様式と定量解析を併用した超微小領域エナメル質の力学的特性評価. 平成 20-21 年度科学研究費補助金, 若手研究 (B), 20791571, 2008.
- 13) 坂井幸子: DMB 定量評価システムの乳歯象牙質への臨床応用. 平成 20 年度新潟大学プロジェクト推進経費 (奨励研究), 2008.
- 14) 飯澤二葉子: 萌出中の歯の歯根膜における歯根膜線維芽細胞の特異的分子制御メカニズムの解明. 平成 20-21 年度科学研究費補助金, 若手研究 (B), 20397144, 2008.

【学会発表】

- 1) Ishikawa Y, Nakakura-Ohshima K, Kenmotsu S, Suzuki H, Jung HS, Ohshima H: Responses of dental pulp stem cells against exogenous stimuli in rat and mouse molars. Gordon Research Conferences: Craniofacial Morphogenesis & Tissue Regeneration, Lucca (Barga), Italy, 2008. 2. 10-15.
- 2) Thaweboon B, Laohapand P, Amornchat C, Matsuyama J, Sato T, Uematsu H and Hoshino E: Host-DNA-fragments in periodontal pockets before and after periodontal treatment. The 86th IADR (Toronto, Canada), 3 July, 2008, J Dent Res , 87 (Special Issue B): #0778, 2008.
- 3) Matsuyama J, Sato T, Abiko Y, Kato K, Hoshino E : Real-time PCR analysis of cariogenic bacteria in supragingival plaque biofilm microflora on caries lesions of children. The 3rd International Symposium Interface Oral Health Science (Sendai, Japan), 2009. 1. 15.16.
- 4) Sato T, Hoshikawa Y, Kondo T, Hashimoto K, Hasegawa A, Matsuyama J, Takahashi N: Involvement of cough reflex impairment and silent aspiration of oral bacteria in postoperative pneumonia: A model of aspiration pneumonia. The 3rd International Symposium Interface Oral Health Science (Sendai, Japan), 2009. 1. 15.16.
- 5) 大島勇人, 石川裕子, 鈴木啓展, 監物新一, 大島邦子, 本田雅規, 石井有実子, 渡辺信和: ラット臼歯歯髓に存在する組織幹細胞について. 第 113 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大分, 2008 年 3 月 27-29 日, 解剖雑誌 3 (Suppl): 148 頁, 2008.
- 6) 高木純一郎, 佐野富子, 三富智恵, 田口 洋: 歯胚の方向異常による下顎第二小臼歯の萌出障害. 第 46 回日本小児歯科学会大会, 大宮, 2008 年 6 月 12, 13 日, 小児歯誌 46 (2): 233 頁, 2008.
- 7) 細川由佳, 松山順子, 田口 洋: 後継永久歯の位置異常を伴う下顎第二乳臼歯の埋伏. 第 46 回日本小児歯科学会大会, 大宮, 2008 年 6 月 12, 13 日, 小児歯誌 46 (2): 264 頁, 2008.
- 8) 河野承子, 河野芳朗, 田口 洋: ラット臼歯発生過程におけるアクアポリン 1 (AQP1) の発現. 第 46 回日本小児歯科学会大会, 大宮, 2008 年 6 月 12, 13 日, 小児歯誌 46 (2): 287 頁, 2008.
- 9) 河野芳朗, 木下-河野承子, 鈴木晶子, 野澤-井上佳世子, 前田健康: ヘルトビッチの上皮鞘の断裂に伴うアクアポリン 1 陽性細胞の出現とネスチンの発現. 第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会, 東京, 2008 年 9 月

23-25 日. 歯科基礎医学会雑誌 50 (Suppl) : 128 頁, 2008.

- 10) 大島勇人, 石川裕子, 鈴木啓展, 監物新一, 大島邦子: マウス臼歯舌下部への他家移植後の歯髓組織幹細胞の動態と硬組織形成能について. 第 50 回歯科基礎医学会学術大会, 東京, 2008 年 9 月 25 日, 歯科基礎医学会雑誌 50 (Suppl) : 128 頁, 2008.
- 11) 木下-河野承子, 河野芳朗, 鈴木晶子, 野澤-井上佳世子, 田口 洋, 前田健康: ラット臼歯歯根象牙芽細胞におけるアクアポリン 1 の一過性の発現. 第 50 回歯科基礎医学会学術大会・総会, 東京, 2008 年 9 月 23-25 日, 歯科基礎医学会雑誌 50 (Suppl) : 141 頁, 2008.
- 12) 大島邦子, 佐野富子, 田口 洋: 某知的障害者更生施設における自閉症者の口腔内状況について. 第 25 回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 東京, 2008 年 10 月 12 日, 障害者歯科学雑誌 29 (3) : 465 頁, 2008.
- 13) 川崎勝盛, 松山順子, 三富智恵, 佐野富子, 竹内優美子, 田口 洋: 食物の取り込みに対する視覚遮断の影響. 第 26 回日本小児歯科学会北日本地方会, 札幌, 2008 年 10 月 18 日, 小児歯誌 47 (1) : 134-135 頁 2009.
- 14) 飯澤二葉子, 金城奈津子, 田口 洋: 下顎左側に発生した Regional odontodysplasia の 2 症例. 第 26 回日本小児歯科学会北日本地方会, 札幌, 2008 年 10 月 18 日, 小児歯誌 47 (1) : 138 頁, 2009.
- 15) 高木純一郎, 佐野富子, 三富智恵, 田口 洋: 歯胚の方向異常による下顎第二小白歯萌出障害の臨床的検討. 平成 20 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2008 年 11 月 8 日, 新潟歯学会誌 38 : 141-142 頁, 2008.
- 16) 川崎勝盛, 松山順子, 三富智恵, 佐野富子, 田口 洋: 摂食嚥下機能の発達: 一口量の識別能は思春期初期に成熟する. 第 21 回日本歯科医学会総会, 横浜, 2008 年 11 月 14-15 日, 日歯医師会誌 61 (5) : 100 頁 (500), 2008.
- 17) 大島勇人, 石川裕子, 依田浩子, 鈴木啓展, 監物新一, 大島邦子, 本田雅規, 石井有実子, 渡辺信和: ラット臼歯歯髓に存在する組織幹細胞: BrdU ラベル細胞と SP 細胞との相関について. 第 8 回日本再生医療学会総会, 東京, 2009 年 3 月 4-6 日, 再生医療 8 : 208 頁, 2009.
- 18) 大島勇人, 石川裕子, 依田浩子, 鈴木啓展, 監物新一, 大島邦子: マウス舌下部への臼歯および歯冠部の他家移植後の歯髓組織幹細胞の動態と硬組織形成能について. 第 114 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 岡山, 2009 年 3 月 28-30 日, 解剖雑誌 84 : 140 頁, 2009.
- 19) 河野芳朗, 木下-河野承子, 鈴木晶子, 野澤-井上佳世子, 前田健康: 第 114 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 岡山, 2009 年 3 月 28-30 日, 解剖雑誌 84 : 179 頁, 2009.

【講演・シンポジウム・研修会】

- 1) 松山順子: 乳幼児期からのむし歯予防と治療. 新潟大学医歯学総合病院口蓋裂診療班. 平成 20 年度第 2 回母親教室, 新潟, 2008 年 7 月 8 日.
- 2) 田口 洋: 子どもの食べる機能の基礎づくり. 平成 20 年度新潟県上越地域歯科保健研修会, 上越, 2008 年 8 月 7 日.
- 3) 田口 洋: 成育歯科を目指して—小児期に多い口腔疾患への対応と食育—. 平成 20 年度新潟県歯科医学大会, 長岡, 2008 年 10 月 4 日.
- 4) 田口 洋: 小児歯科のこれからの方向性—成育歯科を目指して—. 平成 20 年度新潟県臨床小児歯科研究会研修会, 新潟, 2008 年 11 月 9 日.
- 5) 松山順子: 生涯を通じた健康づくりに関心をもとう—赤ちゃんから大人までの歯の健康について—. 新潟市食育・健康づくり地域コミュニティ連携事業, 新潟, 2009 年 1 月 22 日.
- 6) 田口 洋: 萌出障害の臨床的対応—いつ, 何をするのか?—. 新潟大学歯学部同窓会福島県支部講演会, 郡山, 2009 年 2 月 21 日.
- 7) 田口 洋: 萌出障害の臨床的対応, 松本歯科大学大学院セミナー, 塩尻, 2009 年 3 月 16 日.

【教養講義等・その他】

- 1) 田口 洋: 『食べる』の科学. 平成 20 年度新潟大学 G-コード科目「新潟発『食べる』」, 新潟大学, 2008 年 4 月 11 日.
- 2) 大島邦子: 「食べる」ことと口の健康. 平成 20 年度新潟大学 G-コード科目「新潟発『食べる』」, 新潟大学, 2008 年 4 月 25 日.
- 3) 田口 洋: 「哺乳」, 「離乳」そして「食べる」へ. 平成 20 年度新潟大学 G-コード科目「新潟発『食べる』」, 新

新潟大学, 2008年5月23日.

- 4) 野田 忠, 田口 洋:世界の食べ物,『食べる』まとめ.平成20年度新潟大学G-コード科目「新潟発『食べる』」,新潟大学,2008年7月25日.
- 5) 松山順子:歯科講話,新潟大学附属中学校,2008年9月10日,新潟大学附属小学校,2008年9月11日.
- 6) 田口 洋:日本人小児の口の機能発達と病気.平成20年度日本事情自然系B(留学生),新潟大学,2008年10月22日.

顎顔面放射線学分野

【論文】

- 1) Katsura K, Sasai K, Sato K, Saito M, Hoshina H, Hayashi T: Relationship between oral health status and development of osteoradionecrosis of the mandible: a retrospective longitudinal study. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod. 105(6): 731-738, 2008.
- 2) Saito M, Nishiyama H, Maruyama S, Oda Y, Saku T, Hayashi T: Adenoid cystic carcinoma of sublingual gland involving the submandibular duct. Dentomaxillofac Radiol. 37(7): 421-424, 2008.
- 3) 出雲俊之, 大関 悟, 岡田憲彦, 岡部貞夫, 岡崎雄一郎, 桐田忠昭, 草間幹夫, 佐藤 徹, 篠原正徳, 新谷 悟, 田中陽一, 中山英二, 林 孝文, 宮崎晃亘, 柳下寿郎, 山根正之: 頬粘膜癌・口底癌取扱い指針 ワーキング・グループ案(第1版). 日本口腔腫瘍学会学術委員会「口腔癌取扱い指針」ワーキング・グループ編. 口腔腫瘍 20(2): 25-117, 2008
- 4) 林 孝文: 口腔癌頸部リンパ節転移の画像所見と病理所見の対応について. 日口外誌 54(6): 361-367, 2008.
- 5) 五十木裕子, 田中 礼, 林 孝文: 眼窩下隙のCT所見—犬歯根尖病変に起因する歯性感染の波及について—. 口科誌 57(4): 371-378, 2008.
- 6) 平 周三, 新国 農, 林 孝文, 星名秀行, 新垣 晋: 口腔癌の頸部リンパ節転移の診断における組織弾性イメージング(Real-time Tissue ElastographyR)の有用性. 頭頸部癌 34(4): 518-525, 2008.

【商業誌】

- 1) 土田恵美子, 勝良剛詞: 放射線腫瘍学—最近のトピックス 放射線治療技術の進歩による有害事象軽減とQOLの改善. 血液・腫瘍科 56(4): 409-416, 2008.
- 2) 林 孝文, 佐野 司, 岡野友宏: 安全と安心を提供するためのCTによる三次元画像の活用 7(完). 画像診断ガイドラインから見るインプラント治療における骨の質の評価. 日本歯科評論 68(12): 101-107, 2008.

【研究費獲得】

- 1) 斎藤美紀子: CTリンパグラフィを応用した高リスクリンパ節に重点をおいた画像診断の考案. 科学研究費補助金(若手研究(B)), 2008~2009年.
- 2) 林 孝文: 顎関節症の画像診断ガイドラインの策定. 平成19年度日本歯科医学会プロジェクト研究, 2007~2008年.

【招待講演・シンポジウム】

- 1) Hayashi T, Arijii Y: Ultrasonography of the Head and Neck. Hands-on Workshop 3, the 7th Asian Congress of Oral and Maxillo-Facial Radiology, Nara, November 20-22, 2008.
- 2) 林 孝文: 顎関節の描出法と読影. NPO法人日本歯科放射線学会教育研修会第11回実技研修会, 新潟市, 2008年8月3日.
- 3) 林 孝文, 金田 隆, 佐野 司: シンポジウム・デンタルインプラントの画像診断ガイドライン: 事例を中心とした効果的な画像検査法から被曝の概念まで. 第38回(社)日本口腔インプラント学会学術大会, 東京, 2008年9月14日.
- 4) 林 孝文: : ワークショップ 上顎歯肉癌・硬口蓋癌の外科病理—上顎歯肉癌・硬口蓋癌の画像診断—, 第27回口腔腫瘍学会総会・学術大会, 宇都宮市, 2009年1月29-30日.